

3 教材開発の今後の課題

本プロジェクト研究では、教材開発についての検討を行い、一定の成果を得ることができた。しかし、職業能力開発における教材開発の業務としての経常性を考えると、研究業務で培った教材開発のノウハウをどのように継承すればよいか、また、教材開発の手法で、さらに効率の良い方法が考えられないかなど、検討が不十分であった部分もある。そこでこの項では、現段階で考えられる今後の検討すべき点について述べる。

(1) 教材に対する指導員の認識と開発環境

① 教材の共有化に対する認識

教材の共有化については、当初は個人の財産という考え方が強かったが、セミナーを推進するにあたって教材開発のための情報として、プロジェクト研究で開発した教材をCD-ROMに収録し、全国の能力開発施設に配布して、自由に活用できるようにしたことにより、一定の認識を高めることができた。しかし、全ての指導員にこの考え方が浸透したとは言い難く、今後とも教材開発を継続していく上で、重要な課題となる。

共有化の推進のためには側面からの支援も重要となる。具体的には、次のことが考えられる。

- ・開発した教材、また、その作成者に対する公正な評価
- ・教材コンクール等、評価機会の拡大
- ・教材開発のための予算の整備
(図書購入費、教材制作のための物品購入費等)

② 教材の精査

教材を開発、運用する上で、その円滑化を図るためには、現在の研修研究センターが実施する研究業務の範囲内での精査では、おのずと限界がある。

本プロジェクト研究が本年度をもって完了するに当たり、これに替わる精査機関が必要となり、これは、定常的なものとなることが重要である。したがって本プロジェクト研究として、教材の精査、管理について施設単位での対応を提案する。なお、参考として、巻末に資料（施設における教材作成委員会要綱）を添付するので参照されたい。

(2) セミナーの推進にあたって

セミナーの更なる推進にあたって次の提言をしたい。

- ・教材の共有化は、セミナーの推進に効果的であるが、更にセミナーを発展させるためには、新規のコース開発にも取り組む必要がある。
- ・本研究プロジェクトでは、教材開発の視点から検討してきたが、在職者用のセミナーということを考慮すると、在職者訓練に適合した指導方法についても検討が必要である。
- ・教材を開発するにあたってベースとなるマニュアルが必要である。
- ・教材を要素ごとに開発し必要に応じて組み合わせ使用できる形態も考えられる。具体的には、3～4時間を1要素として、要素ごとに課題を設定し、成果物（物づくりが実践できる）が製作できるような構成がよい。
- ・教材を開発するにあたって、教材のHTMLフォーマット化を検討してみてもどうか。HTMLを用いることにより、どんなプラットフォームにおいても利用が可能（ただしブラウザは最低限必要）となる。なお、より知的に利用するならばXML等を用いることも考えられる。

(3) 教材と著作権

著作権の問題は、基本的に作成者の著作権に対する認識と、モラルに依存した問題であるが、作成者本人の認識不足や、勘違い等の不慮の事故が発生しないよう、さらに著作権に対する認識を深める必要がある。

著作権等のチェックが必要な事項については、研修研究センター編集発行の教材情報資料No. 69, 1997「教材作成と著作権」を参考とされたい。